

中国における大学図書館の学習支援について
—北京大学図書館を事例として—
Learning Support in Chinese College and University Libraries
—A Case Study of Peking University Library—

学籍番号：201221620

氏名：冷静

Jing LENG

北米の大学図書館は、教授法と学習スタイルの変化に伴い、学習支援のための設備、資料、サービスを備え、他部署との連携を行い、学内組織が一体となるラーニング・コモンズ (Learning Commons) と呼ばれる学習空間を提供している。中国ではラーニング・コモンズの理論研究が導入された後、「211 工程」大学図書館が、ラーニング・コモンズの実践に意欲を示すようになった。さらに、「211 工程」大学図書館は、ラーニング・コモンズの物理的な空間のみへの注目を避けるため、主題レファレンス・サービスをラーニング・コモンズに導入した。しかし、それに関する研究は理論研究に留まっており、実態が把握されていない状況にある。ついては、本研究では、北京大学図書館を取り上げ、ラーニング・コモンズにおける主題レファレンス・サービスを中心とした学習支援サービスの実態と課題を明らかにすることを目的として、文献調査とインタビュー調査を行った。

本研究では、まず、文献調査により大学図書館の学習支援の背景となる高等教育の発展を概観するとともに、北米におけるインフォメーション・コモンズ (Information Commons) からラーニング・コモンズへの変容、及び中国におけるラーニング・コモンズの現状を明らかにした。つづいて、文献調査により中国の大学図書館における主題レファレンス・サービスの発展と現状を検討した。最後に、文献調査とインタビュー調査により、北京大学図書館における学習支援空間の変遷と主題レファレンス・サービスの現状を明らかにするとともに、ラーニング・コモンズにおける学習支援サービスの実態と利用状況を考察した。

その結果、北京大学図書館のラーニング・コモンズでは、レファレンス・サービスと技術サポートの他に、主題レファレンス・サービスも行う理由として、学内組織との連携が十分取れないため、各学院との連携を図ることが挙げられていた。したがって、主題レファレンス・サービスの内容には、各主題分野の学生に文献情報の収集・利用を提供するとともに、学位論文の作成や主題分野の情報収集に関する授業を担当することも含まれている。また、ラーニング・コモンズの利用状況について、学生へのインタビュー調査から、ラーニング・コモンズを利用している学生は多いが、主題レファレンス・サービスを利用したことがある学生は少ないことが明らかになった。

研究指導教員：溝上智恵子

副研究指導教員：呑海沙織